



## 第5章 都市（まち）づくりの課題

### 1. 都市（まち）づくりの課題の抽出と整理

# 1. まちづくりの課題の抽出と整理

## 1-1. まちづくりの課題の抽出

本計画策定にあたって、本町のまちづくりの課題を第2章白糠町の現況、第3章町民の意向把握、第4章上位計画・関連計画の概要からのまちづくりの方向性やまちづくりの課題を抽出すると以下のとおりです。

### 現況からの課題

#### ■人口・産業関連

- ・人口は年々減少傾向が続いており、今後においても同様に推移されると考えられます。
- ・若者の転出・少子化などによる核家族化現象の進行は、今後も進展すると思われます。
- ・高齢者人口の増加、子ども人口の減少と少子高齢化は今後も進展すると思われます。
- ・各産業が低迷していることから、新たな産業の振興の展開と整備拡充が必要です。
- ・商業の低迷により空き店舗等の増加で、中心市街地の衰退と空洞化が進行しています。

#### ■都市計画関連

- ・都市計画道路の未整備路線が多数あり、全体的に整備率が低いことです。
- ・都市計画公園や都市公園はすべて供用されているが老朽化が進んできています。
- ・街路計画も無い用途地域周辺において、住宅地の拡大や工場との混在地があり、虫食い状態になっています。
- ・市街地内の下水道普及率が低く、早急な整備が必要と思われます。
- ・公営住宅団地の立替事業が進められているが、全体的な建物の老朽化が進んでいます。
- ・開発行為による宅地開発は行われているが、まだ市街地に未利用地が点在しています。

### 町民の意向調査からの課題

#### ■生活環境からの課題(町民全体)

- 主に「満足」が比較的高いもの
  - ・通勤及び通学の便
  - ・公共交通機関の便
  - ・自然や緑の豊かさ
  - ・上下水道の整備
  - ・小中学校・高校の位置・施設内容
  - ・地域連携、・地域行事
- 主に「不満足」が比較的高いもの
  - ・交通安全対策、・道路の整備
  - ・公園等の位置及び施設内容
  - ・街並みの美しさ、・子育ての環境
  - ・福祉施設の位置及び施設内容
  - ・医療施設の位置及び施設内容
  - ・文化施設等の位置及び施設内容
  - ・公害対策、・災害対策
  - ・就業環境

#### ■生活環境からの課題

(中学生・高校生)

#### 中学生

- 自慢できるものなど
  - 自然、母校、公園等
- 施設の希望
  - 大都市にある商業施設
- 改善が必要なもの
  - 校舎、道路、公園

#### 高校生

- 自慢できるものなど
  - 自然、母校、友達・家族
- 施設の希望
  - 大都市にある商業施設
- 改善が必要なもの
  - 列車・バスの本数、校舎、道路
- なくしたいもの
  - 家、無駄なお金、空き家

#### ■自由意見の意向からの課題

(町民全体)

- 道路整備について
- 公園・緑化について
- 個性あるまちづくりについて
- 集客施設について
- 行政について
- 就業環境の整備について
- 少子高齢化社会について
- 商業施設の充実について
- 子供を育てやすい環境について

### 上位計画・関連計画におけるまちづくりの方向性

#### ■第7次白糠町総合計画

- まちづくりのテーマ
  - 『生き生きしらぬか  
笑顔輝くまちを目指して』
- まちづくりの基本施策
  - ・機能的で魅力ある基盤づくり
  - ・美しく快適な環境づくり
  - ・健康で思いやりのある社会づくり
  - ・希望あふれるひとづくり
  - ・活力に満ちた産業づくり
  - ・みんなで歩む地域づくり

#### ■白糠都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

- 基本テーマ
  - 『しらぬか彩(さい) 発見  
幸せ指数 100 パーセント』
- 基本方向
  - ・機能的で賑わいに溢れ活力あるまちづくり
  - ・豊かな自然と暮らすまちづくり
  - ・ふれあいと思いやりで共に築くまちづくり

#### ■白糠町公共賃貸住宅ストック総合活用計画

- 住宅施策の基本目標
  - 『安心して町に住み続けることのできる住宅・住環境の形成』
- 住宅施策の基本方針
  - ・多様な世帯階層に対応できる定住環境の整備
  - ・少子高齢社会への対応を図る環境整備
  - ・まちづくりと連動した住宅・住環境整備

1-2. 都市づくりの課題の整理

本町の都市づくりの課題を整理するとともに、白糠町都市計画マスタープランの都市づくりの方向性は以下のとおりです。

現況からの課題の整理

■人口減少等による適正な市街地の形成

総人口の減少に伴う市街地人口は減少傾向にあることから、今後は人口規模に見合うコンパクトな市街地形成を図る都市基盤整備の検討が必要です。また、産業が低迷する現状で、活気に満ちた産業づくりの基盤整備を行うとともに、用途地域の見直しにより、住宅地・商業地・工業地の適正な土地利用の誘導を図ることが求められます。

■少子高齢化の進行の対応

道路・公園・住宅などの配置・整備にあたっては、今後も少子高齢化や核家族化の進展にともない、高齢者夫婦や単身世帯が増加していくと予想されることから、高齢者や障がい者などに配慮した施設造りが求められます。また、防災・防犯等のシステムや地域コミュニティをどのように構築するかが求められます。

■中心市街地の活性化の検討

大規模小売店舗の近隣市町進出などにより購買力が流出し、中心市街地の商業を取り巻く環境は衰退し、中心市街地の空洞化が進みつつあることから、今後は商業のみならず中心市街地はどうあるべきか、町民・企業・行政が共有の目標像を設定し、実現に向けた様々な取り組みを行うことが必要です。

■道路等の都市施設整備の検討

中心市街地の衰退や空洞化・未利用地の点在は、都市計画道路の未整備など都市施設整備の遅れも要因と考えられます。今後はコンパクトな市街地形成と連動した長期的な視野のもと、効率的な公共サービスを町民に提供できるような都市施設整備プログラムの検討を行うことが必要です。

町民の意向調査からの課題の整理

■賑わいと活気のある産業振興の検討  
アンケート調査による自由意見の中で、観光施設の整備や商業などによる賑わいのある市街地の形成、雇用の場の確保などが上げられ、基幹産業である農林水産業と観光・商業が一つにまとまった活気ある産業振興から賑わいのある都市づくりの検討が必要です。

■公共施設の適正な配置に向けた土地利用と都市施設整備の検討

アンケート調査における不満足から、道路整備や医療施設・福祉施設などの施設整備の要望が強く、利用者である町民の利便性や快適性などを考慮した長期的な視野に基づく市街地内の土地利用計画・都市施設の再配置の検討が必要です。

■豊かな自然環境の保全の検討

アンケート調査では「自然や緑が豊かだと感じる」との回答が約7割を占め、理由としては「山・川・海・緑などの自然の豊かさ」の自然環境が多数上げられており、今後の市街地の開発抑制や自然環境を活用した整備への影響があることから、身近に感じられる豊かな自然環境を保全する検討が必要とされています。

■都市づくりへの積極的な町民参加の検討

アンケート調査において、町民の都市づくりへの意向が明らかになりましたが、活動への参加意向はどちらかという傾向にあり、今後の都市づくりにおいて非常に重要で欠かすことができない町民の意見をどのように引き出すかを検討することが求められます。

上位計画・関連計画における都市づくりの方向性の整理

■自然環境の保全と共生が図られる都市づくり

「阿寒富士」を頂点にして山地と丘陵地が連なった農地を中心とした平地や丘陵地など、自然豊かな自然環境の保全を図り、その自然環境を最大限に活用した観光産業の進展など、自然と都市及び人が共生する環境共生型の都市づくりの推進が方向性として抽出されます。

■多様な交流が図られる都市づくり

道東の中核都市としての町村交流、高齢者と若者の世代を越えた交流、道内外からの観光客との交流など地域性に即した施設の拡充を図り、活気のある都市づくりの推進が方向性として抽出されます。

■快適で安心して暮らせる都市づくり

利便性の高い都市機能、安心できる生活、潤い・やすらぎ・ゆとりなどの快適な都市環境など、都市生活を営むうえで必要となる都市づくりが方向性として抽出されます。

■町民と行政が協働する都市づくり

心温まる地域づくり・都市づくりを実現するため、町民と行政があらゆる情報を共有し、互いに連携して歩むことができる協働の都市づくりが方向性として抽出されます。

■白糠町都市計画マスタープランの都市づくりの方向性

○豊かな自然環境の保全と共生

本町の豊かな自然環境や自然景観は、「白糠町らしさ」を表しており、人に憩いや潤いを与え、これらの自然は白糠町全体の活性化の観点から欠かせないものであることから、自然環境を保全しつつ観光開発を促進します。

本町の都市づくりにおいては、自然と都市・人がどのように共生していくかが検討すべき方向性であります。

○人口規模に見合う、賑わいと活気のある市街地の形成

本町の人口は減少していくことが予想されることから、現在の市街地規模や人口規模に見合うコンパクトな都市づくりを図り、その中で良好な住環境が形成される住宅地、活気・賑わいと利便性の高い商業地、地場産品の活用が図られる工業地の配置を検討します。

また、これらの土地利用を基本とした効率的な都市施設を適正に配置するなどの市街地形成を図ることが本町の都市づくりにおいて検討すべき方向性であります。

○誰もが快適で安心して暮らせる生活環境の創出

これからの加齢すると予想される少子高齢社会に向けて、高齢者や障がい者の方々など町民の誰もが、憩い、ゆとりなどの快適な環境のもとで安心して暮らすことができるとともに、多様化する生活様式のニーズに対応できるような生活環境の創出を図ることが本町の都市づくりにおいて検討すべき方向性であります。

○町民と共に創る都市づくり体制の確立

これからの本町の都市づくりは、行政が町民や企業などと協働して進めることによって達成されることから、行政が町民や企業などと協働して都市づくりを進めることができる体制などの協働体制を作ることが検討すべき方向性であります。